

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	52
基本施策	14	芸術・文化の振興	評価責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	2	芸術・文化活動の促進		

1 施策の概要

基本方針	映画や音楽、演劇等の鑑賞会など、町民が身近に優れた芸術・文化にふれる機会を充実させていくとともに、陶芸など、町民の自主的な芸術・文化活動を支援します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	映画や音楽、演劇等の鑑賞会など、住民が身近に優れた芸術・文化にふれる機会の充実と住民の自主的な芸術・文化活動の支援を行っている。	保育所児から一般を対象とする幅広い年齢層へ映画や音楽、演劇等を鑑賞する機会の提供により、高い関心を得ることができた。各文化団体へ補助金を交付することで、安定した運営に寄与したほか、町民の創作活動を支援し活動の場を広げていくことで、芸術・文化の振興に寄与することができた。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	住民が優れた芸術や文化にふれることで、住民自らが積極的な文化活動等への参加促進が求められる。	町民がより高い関心を持てる参加・体験型のプログラムなど、幅広い年齢層への多様な芸術・文化事業を計画的に実施するとともに、積極的な情報発信による町民の自主的な文化活動等への参加促進が求められる。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町内での芸術・文化鑑賞の機会の年間延回数					
	定義等	芸術・文化鑑賞機会の年間回数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		5回	4回	5回	3回	10回
指標2	指標名	おうむ陶芸工房の年間延利用者数					
	定義等	陶芸工房の利用者数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		424人	568人	546人	792人	600人
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	芸術文化公演事業	生涯教育係	1,200	A	継続/現状維持	A
②	陶芸推進事業	生涯教育係	842	A	継続/現状維持	A
③	社会教育関係団体活動費補助事業	生涯教育係	650	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	芸術・文化活動の促進については、町民の文化意識の高揚と自主的な活動促進を図る上で重要な施策である。
② 有効性	A	本施策の実施により、芸術・文化に対する町民意識が高まっていると判断される。
③ 効率性	A	本施策における事業展開については、限られた財源の中、各種プログラム内容に呼応したコスト精査を行い、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策の効果は、町民全体に還元されることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	各種プログラム内容の決定に当たっては、社会教育委員の会議のほか、町民要望等も取り入れながら各種事業を展開している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
芸術・文化活動の促進については、関係事業を効果的に進めてきたところであり、各文化団体による自主的な活動も行われていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
町民がより高い関心を持てる参加・体験型のプログラムなど、幅広い年齢層への多様な芸術・文化事業の提供を行うとともに、積極的な情報発信を継続していくものとする。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止